



「まわしよみ新聞」のすすめ

梶井英人 大阪府立北野高等学校



『明解国語総合』の活動学習

アクティブラーニング

『明解国語総合』には、次のような、単発でも使える表現活動のアイデアが載っています。

◇話す・聞く活動

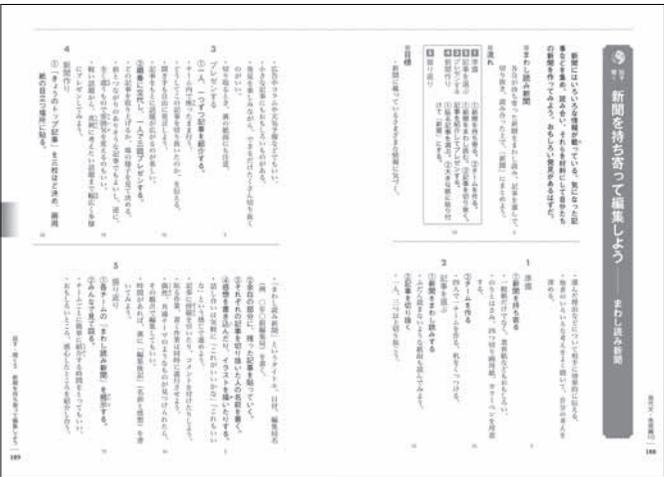
- ・自分を印象づけるスピーチ 自分を漢字で表すと？
- ・なんて、言っている？
- ・この本を読んでみて！ ブックトーク
- ・討論ゲームを楽しもう
- ・新聞を持ち寄って編集しよう まわしよみ新聞

◇書く活動

- ・隣の友達
- ・情報の読み方・扱い方

「まわしよみ新聞」とは

「新聞を持ち寄って編集しよう まわしよみ新聞」という活動を取り上げます。これは、「まわしよみ新聞」という「メディア遊び」をもとにした学習活動です。新聞を持ち寄って、おもしろいと思った記事を切り抜く。グループ内でその記事を紹介し合う。台紙に記事を貼り付けて、一枚の新聞を作る――。



- ・私の発見や変容を伝える 感想文・報告文
- ・原作と勝負！
- ・マンガの楽しみ
- ・新聞に投書してみよう 意見文

国語の授業の展開には、表現活動を組み込むことが必須です。これらのアイデアは、そのまま使うだけでなく、場合に応じてさまざまに応用できるものです。

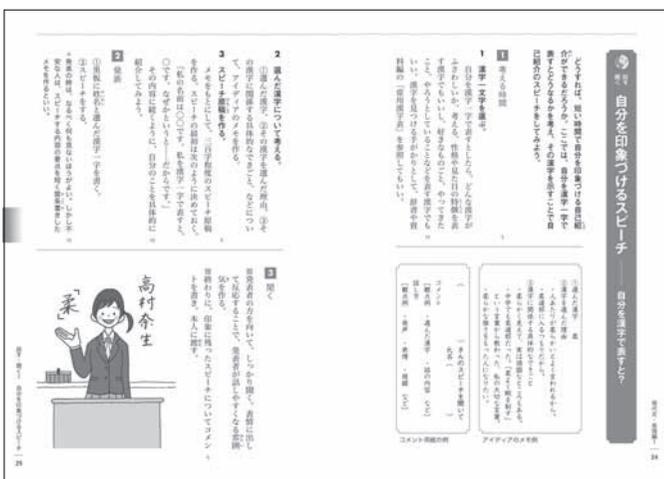
例えば、「自分を印象づけるスピーチ 自分を漢字で表すと？」は、漢字一字を手がかりに自己紹介する活動ですが、「何かを漢字一字で表現する活動」と一般化すれば、自己紹介以外の学習にも活用できるでしょう。漢字の種類を制限するこ

たったこれだけのシンプルな活動です。発案者のコモンズ・デザイナーむつさとしさんは、その意義について、ウェブサイトに「まわしよみ新聞」の中で次のように言っています。

インターネットの「情報検索性」は非常に便利なものですが、それがゆえに自分が欲している情報のみを取得する傾向にあり、これは結果として自分の世界を狭くします。それに対して新聞は「見出しの大きさや幅」「記事の文字量や序列・配列」などによって「社会的なニュース価値」を察知することが可能です。(中略)さらに新聞は「みんなで読む」という「まわしよみ」が可能なメディアです。まわしよみで思ったことを話し合ったり、それを契機にして、多様な意見が聞ける。他者を知るコミュニケーション・ツールになる。これは自己完結してしまいがちなインターネットにはない面白味ではないか？

「まわしよみ」は、とにかくおもしろい活動です。そもそも発案者は、「喫茶店で」「おっちゃんママさんが新聞を

とによって、漢字そのものの学習にも使えそうです。活動的な学習といっても、特別なことはなく、むしろ、シンプルなアイデアこそ使いやすく、効果的です。大切なのは、活動的な学習をすることが目標なのではなく、何のために、どのように活動を組み込むかという観点です。



回し読んで楽しんでいる光景を目撃し、「古書店で昭和四〇年代の新聞のスクラップブックを見つけ」、「スクラップすることの面白さに気付」き、これを感じたそうです。市民の集いの場や大学、新聞社主催の催し、さらには小中高の学校現場にも広がっています。

「まわしよみ新聞」の実践と可能性

私は、むつさんの「編集者養成講座」(名前は大仰ですが、要するに「まわしよみ新聞」の体験の場)に参加して、これはおもしろいなあと感じ、授業に取り入れています。

まずは、大学の授業でやってみました。国語教師を目指す学生の講座です。

四〇人ほどの学生の中で、新聞を読む習慣のある人は、ほぼなし。これが実態です。

何はともあれ、「新聞を読むこと」「みんなで作る表現活動」を体験してもらうのが目的です。「新聞」の名のつくものならなんでもオッケー。彼らにとって、「新聞」を手に入れること自体が学びです。

活動の要領は以下の通り。これは九〇分用のスケジュールです。

①まわしよみタイム

新聞をまわしよんで、記事を切り取る時間。目安は一五分ぐらい。四人で一人チームになります。とりあえず気になったものはすぐ切り取って、あとでプレゼンするときに選ぶようにします。

②プレゼンタイム

切り抜いた記事を紹介して、感想を言い合います。目安は四〇分。一人で三枚の記事をプレゼンします。

③新聞作りタイム

切り抜いた記事を一枚の壁新聞にします。目安は三〇分。盛り上がった記事を三枚ほど決め、トップ記事を選び、いちばん目立つ部分に貼ります。「まわしよみ新聞」「日付」「編集局(場所・班員等)」を書き、余白には残った記事をどんどん貼ります。貼る人、感想を書く人、イラストを描く人など、同時進行で行います。時間があれば、完成した新聞をみんなの前でプレゼンするのも楽しいです。



写真提供：まわしよみ新聞実行委員会

学生たちは専攻もばらばらで、知らない者どうしでグループを作っていることが多いのですが、やっているうちに、本当に和気あいあいとした雰囲気を作っていきます。新聞記事の多様さに気づいたという感想も多く見られました。後にこんな感想を書いた学生もいます。

グループで活動した新聞作りや、ペアでいろんな活動をしたことが印象に残っています。一人で学習するよりも

誰かと一緒に活動したほうが、自分では思いつかないようなアイデアが生まれ、自分の考えが広がるのだと感じました。言語活動が重視されていると学びましたが、なぜかわかりました。国語は一人で作品と向き合うというイメージが強く、この授業を受けるまでは、それが当たり前で、これからも変わらないと思っていました。

しかし、この授業を受けてみて、その考え方が変わろうとしていることがわかりました。

高校では、国語表現の〈柔軟体操〉として使いました。よく見渡して、気づくということに主眼を置きました。いろいろな材料を発見するためのトレーニングという位置づけです。

その場での発見、発見の共有。これがさまざまな効果を生みます。誰でも平等にできること、最後に目に見える形で一枚にまとめることがポイントです。

「何かの素材から、自由に発見して、共有する」ツールとして一般化すれば、何らかの目標をもった学習の過程としていろいろに組み入れることができます。気軽に試みていただきたい活動です。